

情報連絡員報告・4月分

イラク戦争、SARS、株安と次々に不安材料が出現

～不況・後継者難から本業撤退も～

<東京都中央会>

4月の情報連絡員報告書によると、「業界の景況」DIは製造業-47.7（前月-49.2）、非製造業-48.2（同-44.7）、「収益状況」DIは製造業-41.5（同-46.2）、非製造業-43.5（同-47.1）で、ほぼ前月と同様の数値を示していることが明らかになった。報告欄には、イラク戦争、SARS、株安等で心配するものや、不況・後継者難を理由に本業から撤退し賃貸する店舗も出てきているといった声（新宿の専門店）が寄せられている。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

<特記事項欄より>

ゴム製品製造=イラク戦争、SARS問題、株安と次々に不安材料が出現し、景気悪化が懸念される。

新宿専門店=長引く消費の不振と後継者難で本業をやめ、賃貸するケースが目立つ。

製粉業=最近、小麦粉の輸出量が増加している。しかし、輸出単価は若干安くなっている。

菓子製造=各企業とも自分の身の丈にあったデフレ対策模索中。休・廃業が目立つ。

清涼飲料製造=大手企業の嗜好品の変化

による他品種化に中小の製造業は対応が厳しい。

和服裁縫=経営者の高齢化と若年層の着物離れにより年々仕事量が減少している。過去の夢を捨て生き残りを模索中。

帽子製造=4月は土曜のたびに雨が降り、外出する機会が減り紫外線防止関連の帽子が苦戦。

建具製造=年度末から年度初めにかけて仕事量の減少を理由に店を閉める企業が出た。

家具製造=依然として低迷が続いている。建築基準法の改正に伴い家具製造業者も対応を迫られている。

印刷業=業況は依然として低迷している。組合員加入増強運動を継続的に実施している。

ラベル印刷業=4月からの容器包装リサイクル法の罰則規定により、紙マーク・プラマーク表示の注文が増え、久しぶりに若干上向いた感じ。

潤滑油製造=イラク戦争が終結に向かい高騰していた原油価格の先安感が強まっている。

塗料製造=原材料(特に溶剤、樹脂の一部)の値上がりが大きく、景況は悪化した。

コンクリート製品製造=年度初めはスタート段階で工事発注もその準備段階ということから例年発注量は減少する。

砕石工業=政府の景気対策は八方塞がりの状態といわれ始めている。株価、失

業率、不良債権等手詰まりである。

金属熱処理=年度末まで継続した好調も、4月に入れば落ちると予想していたが、結果として好調が続いている。

羽田地区工業団地=団地内の売却要望先について引き合いが散見される。土地の動きは活発化しつつあるのか?

メッキ業=機能・用途メッキ関係が好調であるが先行は不透明。

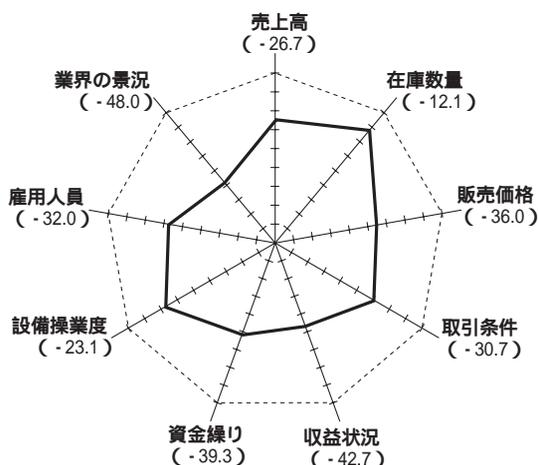
管工機材卸=底這い続く。景況感としては部分的に悪い・全体として悪いが6割近くを占める。

豆腐小売=気温の低い日が続き、豆腐の売行きが伸び悩んでいる。天候と気温に大きく左右される商品の宿命である。

< 要望事項欄より >

* 株価の安定と雇用の改善を早急にお願いしたい。 [建築金物製造]

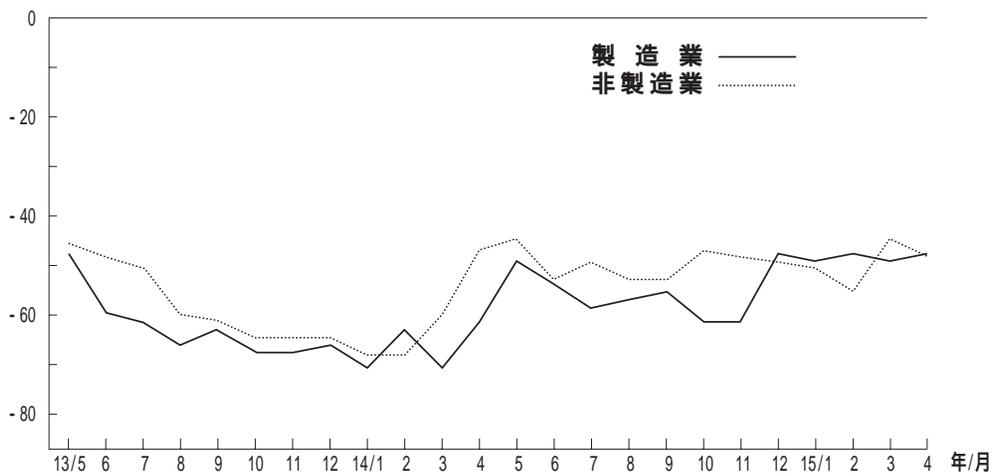
4月のレーダーチャート(全産業、前年同月比DI値)



(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

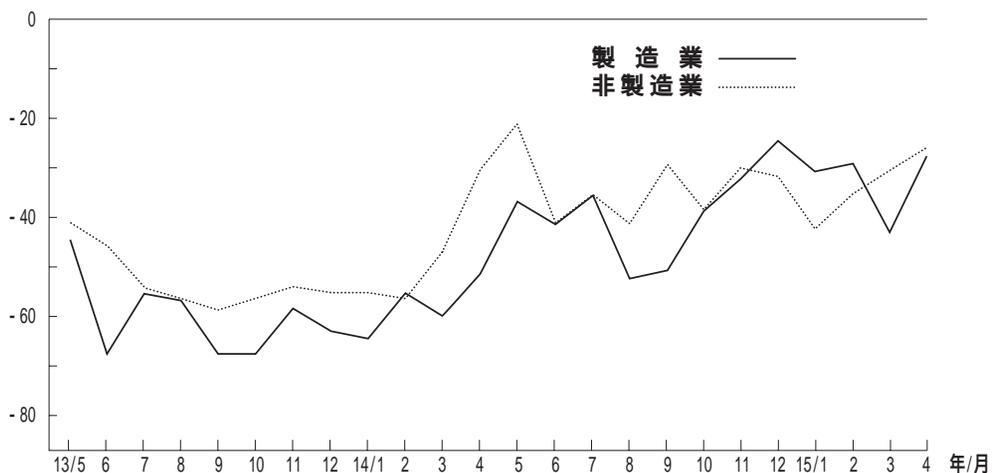
業界の景況DIの変化

(前年同月比)



売上高DIの変化

(前年同月比)



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。